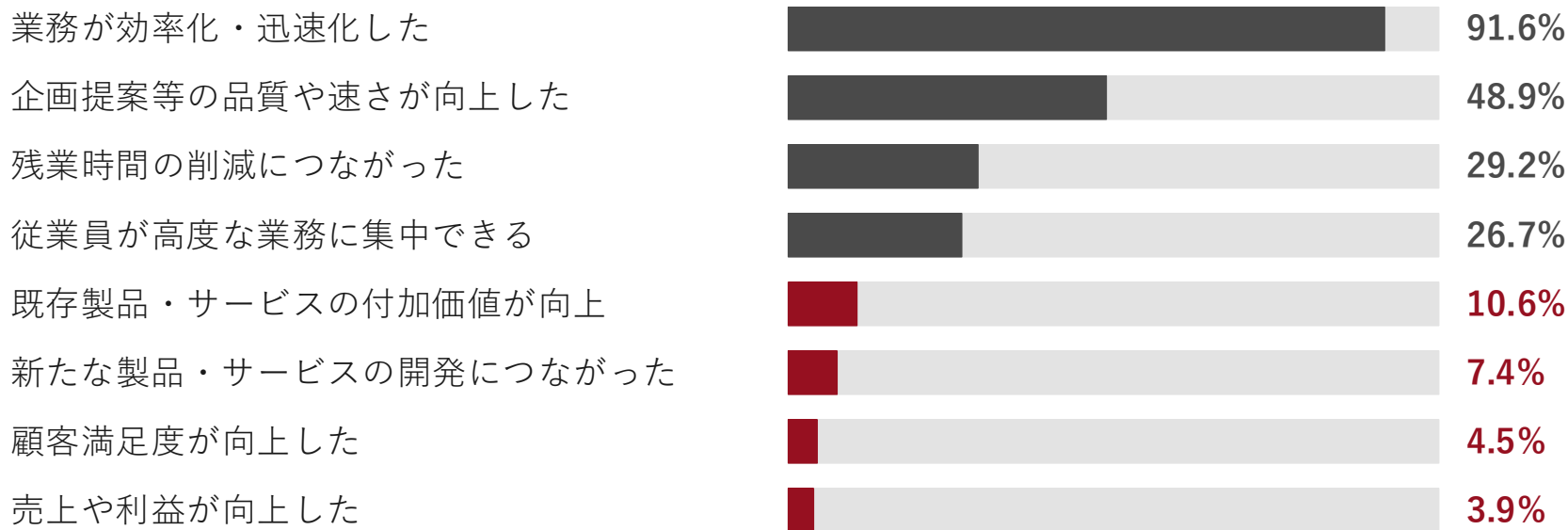


AIで速くなっても、価値は届いていますか？

～AI時代に、アジャイルを始める理由～

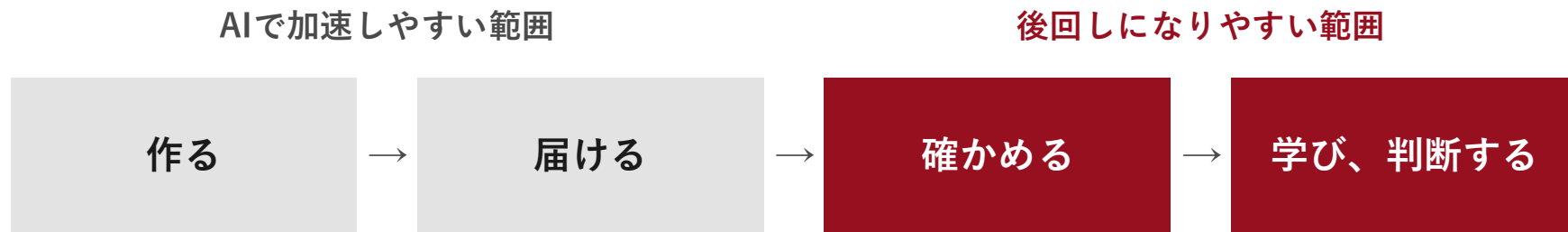
AIの効果は効率化が中心。売上向上は3.9%

■ 業務の効率化 ■ 価値の創出



IPA「DX動向2026」図表3-14（2025年度、n=853、複数回答）をもとにABIが作成

AIが速くするのは、「作る」ところです



作る速度だけが上がると、「価値が届いたか」を確かめる前に、成果物が増えていきます。

確かめて、学び、次を決める。このサイクルがアジャイルの中心です。

※この図は、データを踏まえたABIの見方です。

アジャイルとは、小さく作り毎回学ぶ考え方

従来の進め方

最後に1回だけ確認



アジャイル

小さく作り、毎回確認



① 小さく作る

② 毎回フィードバックを得る

③ 学びを次に活かす

FB=フィードバック。

アジャイルを実践する代表的な方法が、スクラム

スクラムは、アジャイルの考え方を実際の仕事に落とし込む、最も広く使われている枠組みです。

3つの役割

- プロダクトオーナー
- スクラムマスター
- 開発者

5つのイベント

- スプリント
- スプリントプランニング
- デイリースクラム
- スプリントレビュー
- レトロスペクティブ

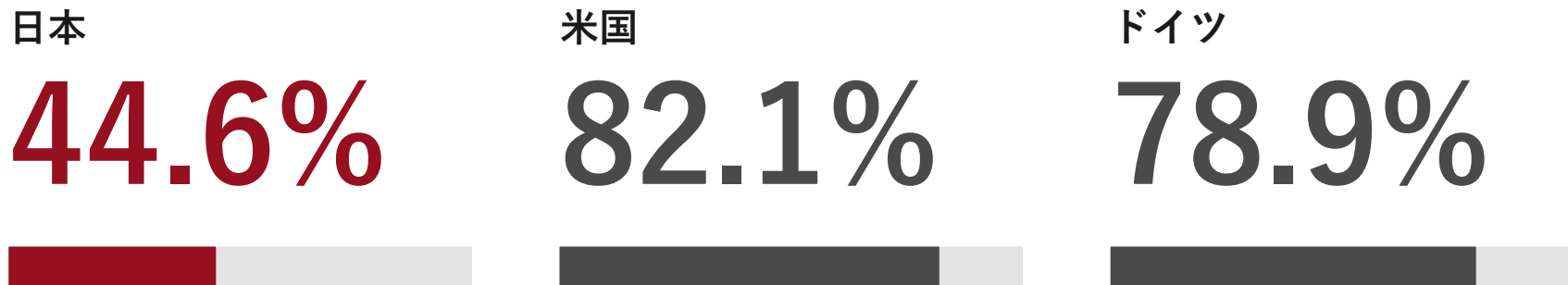
3つの作成物

- プロダクトバックログ
- スプリントバックログ
- インクリメント

ABIの研修は、Scrum Alliance認定。このスクラムを、演習で体験しながら学びます。

日本のアジャイル実践は、米独の約半分

アジャイルの原則・アプローチを「全面的」または「一部」取り入れている割合（IT部門）



差があるということは、これから伸ばせる余地があるということです。

IPA「DX動向2025」図表1-31（2024年度）をもとにABIが作成（「全面的」と「一部」の合計）。日本n=1,311／米国n=479／ドイツn=510

速さを、価値の確認につなげるアジャイル

1

小さく試す

AIで試作・検証の時間を縮め、顧客に見せられる単位まで小さく作ります。

2

毎回確かめる

作った量ではなく、「価値が届いたか」を顧客や現場の反応で判断します。

3

学びを次に活かす

ふりかえりで、AIをどこに使い、どこは人が考えるかを見直し続けます。

AIは速度を上げる。アジャイルは、その速度を価値に変える。

世界の現場を知る講師から、直接学べます



Joe Justice

認定スクラムトレーナー (CST®)

- 「Wikispeed」創設者（数週間で新車開発）
- Tesla、Amazonなど業界リーダー企業を指導
- 世界20カ国以上でアジャイル変革を指導

ABIの研修サポート実績は、累計1万人以上

受講後に、持ち帰れるもの

国際認定資格（CSM®）

国際資格を取得。試験は日本語で受験可能です。

翌日から使える実践力

演習とシミュレーション中心で学べます。

他社の実践例という視点

他社の事例から、自社の課題を考えられます。

役割に合わせて選べます

スクラムマスター

CSM®／A-CSM®／CSP-SM®

プロダクトオーナー

CSPO®／A-CSPO®／CSP-PO®

開発者

CSD®

研修・助成金のご相談：abi-agile.com ／ info@abi-agile.com